

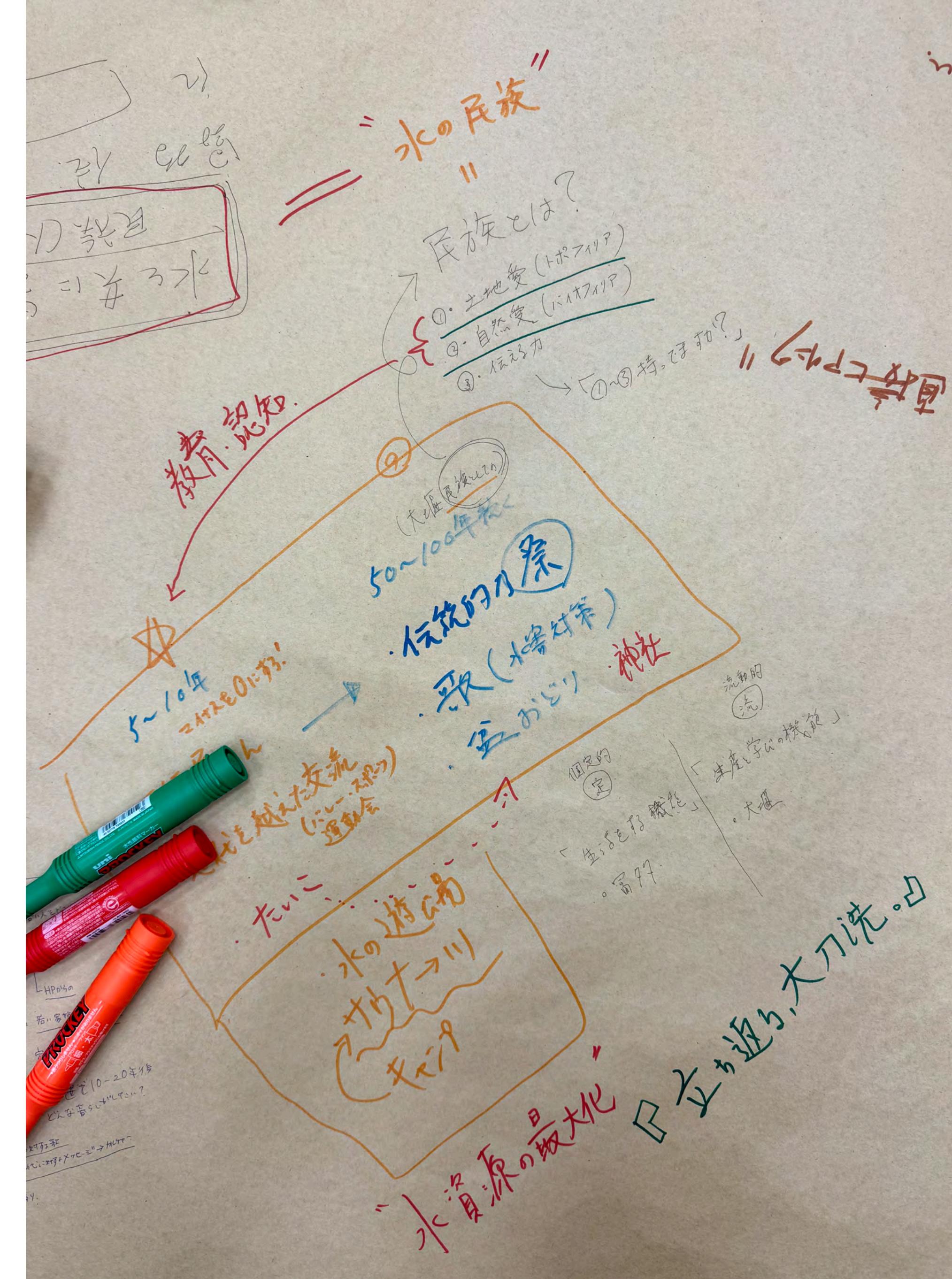


課題解決型未来構想



総務省 地域力創造アドバイザー 東山 迪也
Ministry of Internal Affairs and Communications

本資料は地方創生/生存戦略として、
人々の在り方、目指す方向性、
合言葉、地域資源の可能性などを
まとめたものです。



人々の最大のコミュニケーションは、
居場所でもなく、イベントでもなく、
誰もが使える共通言語である。

—コンセプト・定義の重要性

立ち返る、

大刀洗。

あの頃の、

大堰。

大刀洗・大堰(おおぜき)は、**便利さを追い求める町ではない。**
ここには、過度なスピードや情報から距離を置き、
“生活のペースを取り戻す”ための“ちょうどいい”時間が流れている。

その中心にあるのが 水 であり、
水に寄り添い、堰を築き、農を育て、
コミュニティを守りながら暮らしてきた先人の叡智が息づく町。

立ち返り、未来が見える、大刀洗。
過度に積み上げる町ではなく、
「足るを知り、原点に戻りながら、未来を見つける」
そんな思想を持つ町である。

The more you know, the less you need.
(知れば知るほど、必要なものは少なくなる) - イヴォン・シュイナード

前提としての“敬意”

あの頃の、
共生していた、
大堰。

あらゆる敬意を表しているか。

1. 先人・五庄屋への敬意
2. 自然資源への敬意
3. 行政職員への敬意
4. 民間活動家への敬意
5. ご近所さんへの敬意



THE WAT(ER)

水と生きる、水のような人。

THE WAT(ER)

-ER ; *player, farmer*など、○○する人

WATER, RIVERの中に、人の気配がする。



THE WAT(ER)

水と生きる、水のような人。

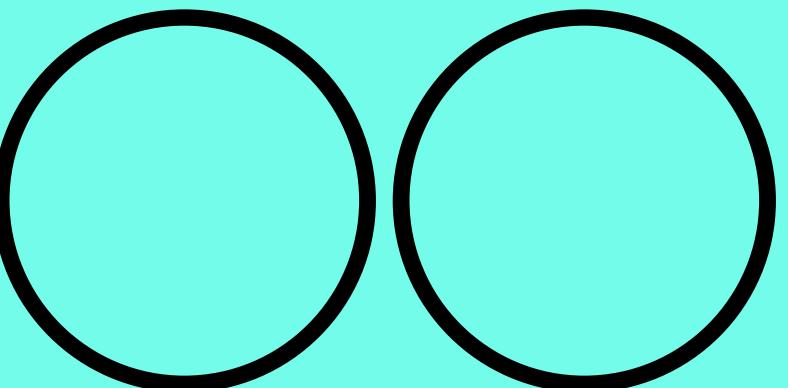
定義

- 時代の流れにしなやかな人
- 自然と調和し、自然を愛する人。
- 上流（歴史）と下流（未来）を繋げる人
- 水のように形を変え様々な関係性を築ける人
- 足るを知り、満ちる暮らしを選ぶ人
(欲や便利が溢れない)

水資源の最大化

こそ

未来の戦略。

水 × 

現状、大刀洗の水は農業にしか使えていない。
しかし、水はもっと町の未来に使える。

水 × 体験 (川アクティビティ)

水 × 文化 (水の物語・堰ツーリズム)

水 × 教育 (水化学習)

水 × 產品 (ミネラルウォーター)

水 × 滞在 (ベジケーション)

THE WAT(ER)、水の潜在力を持った町。

THE WAT(ER) を増やすための成長プロセス

堰 → 水 → 農 → コミュニティ → 交流 → 幸福

1. 堰=水の道（防災・知恵）

先人が築いた堰は、水を拒まず、受け止め、
逃がすための「共生の技術」
→ 防災の原理であり、自然文化の核。

2. 水=農の根源（地域資源）

大刀洗の豊かな農業は、
堰の技術 × 水の質 × 土地の質で支えられてきた。
→ 水は“地域の命の根源”。

3. 農=コミュニティの根源

農があるから、助け合い・分け合い・会話が生まれ、
コミュニティの質が高まる。
→ 農は“人を結ぶインフラ”。

4. コミュニティ=交流

川辺を歩く、堰を見る、水音を聞く、
農を手伝う、食を分け合う—
→ ここに「交流」が生まれ、町に声が増える。

大刀洗・大堰はすべてが“水の循環”によって繋がっている。

堰 → 水 → 農 → コミュニティ → 交流 → 幸福

5. 交流=幸福の根源（幸福度ランキング1位へ）

人とのつながりが幸福度を規定する。

大刀洗の「顔の見える関係」は最大の資産。

→ THE WAT(ER)は、“幸福を育てる、水の民族”。

THE WAT(ER) TOWN PLAN – 5つのすべきこと



農業振興 農政課



特產品PR 地域振興課



歴史教育 こども課

文化復興/創造 地域振興課

防災 総務課

百間堰

川岸から遠くなるにつれ土地が高くなり、農民は水不足に苦しんだ。1710年（宝永7年）の大干ばつで、鏡村の庄屋高山六右衛門は郡内の庄屋中垣清右衛門、秋山新左衛門、鹿毛甚右衛門を説得、堰を築くために立ち上がり藩へ願書を提出した。久留米藩も積極的に応援、家臣の草野又六を普請総裁に任命した（普請奉行は野村宗之丞で、総取締役が草野又六）。早田村（現田主丸町八幡）庄屋丸林善左衛門親子も助勢し、地域村民一丸となつて働いた。

しかし筑前藩の利害を異にする一部の村は築造によつて出水の危険にさらされると反対した。また水量が豊かな筑後川を横切る築堤は困難を極めた。大木や巨岩を沈めても水流で木の葉のように流され、石を満載した古舟を沈め、ようやく基礎を固めることができた。

こうして1714年（正徳4年）堰は完成、古田、新田2,000haが潤つた。その後、堰は流失、修復を繰り返し、現在の恵利堰は1963年（昭和38年）の水害で流失したのを県営工事で2年後に完工、コンクリート製堤長

191.30m。

農業のこだわりを見える化する土壤診断

地球環境への貢献度は

土の見える化

で証明できる



農家さん一覧



農業法人が二世代に渡って運営する、
本格的な体験リゾート。なんじゃもん
じゃリゾート

なんじゃもんじゃリゾート

炭素貯留量が多い

関東地方



【生物多様性調査】有機農業×営農型
太陽光発電所の田んぼはタガメの繁殖
地。グリーンシステムコーポレーション

株式会社グリーンシステムコーポレーション

生物多様性が豊か

関東地方



千年続く農業をビジョンに農を営む
SHO Farm

SHO Farm

土壤微生物が豊か

炭素貯留量が多い

関東地方

選べる3つの土壤診断プラン

つくる人、たべる人の
安心・安全
を見える化

診断内容

- ✓ 重金属4種
- ✓ 残留農薬200種
- ✓ 放射線量

地球環境貢献
を見る化

診断内容

- ✓ 炭素貯留量
- ✓ 菌根菌共生率
- ✓ 一般生菌数
- ✓ 大腸菌群数/大腸菌数

まるっと土地
を見る化

診断内容

✓ 炭素貯留量	✓ 重金属4種
✓ 菌根菌共生率	✓ 残留農薬200種
✓ 一般生菌数	✓ 放射線量
✓ 大腸菌群数/大腸菌数	



エネルギー再生

地域で食とエネルギーを自給自足できるソーラーシェアリング。

CO2を排出しない再生可能エネルギーの発電と

独自メソッドで蘇った豊かな土壤で食物を育てることで、

地域への持続可能なエネルギーの普及に貢献します。



特產品PR 地域振興課



特產品PR 地域振興課

まとめ。

プランの核心。

人々と水の共生。

水と生きる、

水のような人。

- 1 | 大刀洗は「便利を追う町」ではなく、原点に立ち返り未来を見つける町である
- 2 | 大刀洗の核心資源は“水”であり、町の未来をつくる最強のレバッジである
- 3 | THE WAT(ER)=水のように生きる人を増やすことが地域の成長戦略

まとめ。 プランの核心。

人々と水の共生。 水と生きる、 水のような人。

4 | 敬意なくして未来はつくれない
(先人・自然・行政・民間・隣人への敬意)

5 | 水資源の最大化こそ、大刀洗が
幸福度ランキング1位へ向かう近道

6 | THE WAT(ER) TOWN PLAN
(農業・特産品・歴史教育・文化・防災) で
町は一つに繋がる

行政各課が“水”の概念で統合されることで、町全体のビジョンが一本化される。
バラバラな施策ではなく「水の町」としての総合戦略で未来を描く。



大堰の未来に幸あれ。



総務省 地域力創造アドバイザー 東山 迪也
Ministry of Internal Affairs and Communications